

さわがせ

号数 第 3 2 2 号
発行日 令和 3 年 7 月 1 日
発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



境内に実ったミニトマト(6 月 23 日)

この生活をどう受け取れば

教会長 鍵 山 公 生

「コロナワクチン打った?」。「はい、一回だけ」。「あなたはどうですか?」。「私も一回だけ打ちました。後は来月」。と道で出会った人との会話です。最近はコロナワクチンのことが挨拶代わりです。

新型コロナウイルスが国内で感染しだして一年半となり、その罹患者はすでに 7 8 万人、死者は 1 万 5 千人にならんとしています。幸い私の身の回りでは罹った人はなく、誠にありがたいことですが、このことを

通して神様は何を教え伝えようとしておられるのでしょうか。そしてお道の信奉者にとってこのようなとき、どのように受け止めていけばいいのでしょうか。

以前から 3 密にならぬよう、マスクにうがい、手洗いなどの予防を励行してきました。東京、大阪など 4 府県の繁華街では飲食、飲酒の場面に対する規制、そして人の流れを抑制され、営業時間の短縮、外出自粛要請、テレワークの推奨な



どの緊急事態宣言は3回に渡って取り組まれてきました。それでも期間が終了すると再び罹患者の増加する始末。今後どのように防御すればいいのかと戸惑うばかりで、恐ろしい怖いといって逃げ隠れできないのが現状です。

知恵ある科学者たちが研究を重ね、ワクチンが開発され、医療関係者を始め、私達高齢者に投与して下さって、一時的であっても安心を与えて下さっています。今年中には20歳以下の若者にも投与されるだろうとのニュースです。

そのうちにコロナ感染症は必ず終息するでしょう。それがいつだということが分からないから不安なのです。しかしワクチンによって大多数の人々が救われるというニュースにより、我々は心が安らかに生活することができるようになってきました。



大きな目標を持って一心に願う

どんな時代でもそうですが、特にこのような困難な問題があるときはできるだけ大きな目標を持つことです。そして目標に向かって必ずおかげをいただくのだと思って願うことです。願っても無理だろう、などと願う前から打ち消すような心を持ってはおかげが受けられません。元気をだして取り組むことです。そしてどこまでも諦めないことです。

金光様は天地書附に願うには、「生神金光大神様の御取次をもって、一心に願え」と仰せられます。その一心に願うのも、期限なく継続することは難かしく、そこで「3日なら3日の中に、一週間なら一週間と日切りして願え。それで印がなければもう一週間、と押して願え」と一心を込めさせていただくことを教えてくださいました。そうすれば必ずそのお印はいただけます。

恵まれている今までを振り返って

コロナ感染症という難儀なことは今に始まったことではなく、何百年も、何千年も昔から伝染病や感染症、それに戦争など多種にわたって、人間にとっては苦難な問題があり、そこを我々の先祖が神様のご都合お繰り合わせをいただき、祭り替えをしていただき、苦難の中を切り抜け、命をつないでくださったのです。だからこそ私たちの命が今ここにあるのです。いまここに生かされている有り難さ、喜びをかみしめ、神様を始めご先祖さまにお礼を申し上げなければなりません。

幸いにして、今日も目覚めることができ、命をいただいていること。日々の食事がおいしく味わうことができ、排便もできる。そしてこれといった痛み苦しむようなことはなく、安心して夜の安らぎを得る家があること。日々円満な家族があることなどなど、これを喜ばずして何を幸せと言えるでしょうか。

このような神様のありがたさに気づかず、この苦境を辛抱できず、自ら命を絶つ人も多いと聞きます。子供においても家庭・学校、また親の在宅勤務などの環

境変化により自殺が増加しているということを聞きます。この私たちにとって苦痛に思える厳しい時期ではありますが、今までおかげをいただいていたことを思い返しそのおかげにどこまで感謝できているかを反省させていただく時であります。

また自分は都合よく生活ができているからといって、他人の不幸を見捨てず、人と共に明るく、元気に、楽しく生活ができるように願わせていただくことです。そこに親神様の願いをこの世に現すことができいくのです。

わが心でわが身を生かす

副会長 鍵山 道隆

故事に、「禍福は糾^かえる繩^{あざな}のごとし」(幸福と不幸は、より合わせた縄のように交互にやってくるという意。)とありますが、自分にとって不幸なことだと思っていたことが幸せなことだったり、幸せなことだと思っていたことが不幸なことだったり、あるいは、短所が長所に、長所が短所になるということは、昔からわれわれの日常生活の中でよく経験していることではないでしょうか。

松下電器の創業者である松下幸之助さんがある新聞記者の方から「松下さん、あなたがここまで成功された原因はどういうことですか。それを教えてください」という質問を受けたそうです。そのとき、「もし今の姿が成功だとすれば、どういうわけで今日の姿になったのか、正直なところ分かりません。まあ、運命でそうになっていたとしかいいようがありません。しかし強いていうなら、ぼくに学問がなかったことと、身体が弱かったことがよかったのではないのでしょうか」と答えたそうです。

するとその記者は憤然として「そんなバカなことはないでしょう。こちらはまじめに聞いているのですよ」と言われる。そこで「いや、別に冗談をいっているのでも、奇をてらっているのでもないのです。ほんとうのところ、ぼくはそう思っているのですよ」と言って、次のような話をされました。

「まず、ぼくは学問をしていません。それで、仕事をしていくのに学問のある人を使わなくてはなりません、自分に学問がないから、そういう人を非常に尊敬する。早くいうと、うちの社員は全部、個人的にぼくより偉く見える。だから、自然みな意見に耳を傾ける。それで衆知(多くの方の知恵)が集まって経営がうまくいった。それが一つ。もう一つは、ぼくは若いころから身体が弱かった。それでどうしても人に頼り、仕事を任せてやってもらうようになる。それも、思い切って任せるから、みなその持ち味を生かしてどんどん仕事をやってくれる。それで会社がこ

夏越の感謝祭

(6月30日)

半年間の御礼とご無礼をお詫びし、暑い夏を健康に過ごさせていただけるようお願いする、夏越の感謝祭がお仕えになり、その後人形行事が行われました。



ここまで発展してきたのですよ。だから、ウソでも何でもありません」

そう言うと、その記者も、「なるほど、そういうこともいえますな」ということで、最後は笑い話になったそうです。

松下さんは、頑健な身体に恵まれ、一流の大学まで行って高度な学問を身につけていたらどのようになっていたか、それは誰も分かりません。けれど、何もかも自分でやろうとして、あまり大きな仕事はできなかったのではないか。学問がない、身体が弱いということは、常識的に考えれば短所であり不幸なことと考えられます。けれども、そのことがかえて幸いしたとすれば、それはむしろ長所であり幸せなことであったといえなくもないと語っておられます。

私たちも同じことが言えるのではないのでしょうか。体が弱いと自覚していれば無理をせず、長生きされる方がおられます。またいろいろと考えすぎて、物事がなかなか進まない方でも、しっかりとした思慮を持ち、いざというときにしっかりと助言してくださる方もいます。年老いて、体が不自由であってもそのことでいろいろなことに気づかれて人から必要とされる方がおられます。長所短所というものとは一体のものであり、それぞれの心の動きによって変わっていくものではないのでしょうか。

また神様のおかげの世界でも同じことが言えます。神様にお願いさせていただいても、すぐにおかげが現れなかったが、のちにご都合をいただいたり、志望していた大学を受験し、不合格となったが、その後無事就職し幸せになっておられます。

教祖様は、「わが心でわが身を生かすこともあり、殺すこともある。」とおっしゃっておられます。私は、こんな家に生まれたから、体が弱いから、能力が低いから、周りにあの人がいるから不幸だとか、上司が無能だから出世できないとか、周囲や環境が悪いからできないと初めからあきらめるのではなく、自分の今の状況や境遇そのままに、神様にしっかりとお願いさせていただき、その中で精いっぱい生活をさせていただくことで、神様が道をつけてくださり、幸せな生活が送れると思わせていただきます。

教会屋根の葺き替え工事について

現在のお広前は、昭和 60 年の靱布教 80 年祭時に建築され 36 年が経過いたしました。以前より雨漏りしており、教会長先生はじめ、有志の方で屋根の防水塗装や、補修などを行ってありましたが、平成 30 年の台風による強風や大雨などにより、近年雨漏りがひどく、7月より建築業者による葺き替え工事を行うことになりました。見積金額は、3,378,760円です。皆様のお祈り添えを賜り、無事に工事が終わられますようご協力をお願いいたします。



7月

- 1日(木) 月例祭執行 午後2時
- 3日(土) 御本部月参拝 午前6時出発
- 4日(日) うりわり墓参 午前7時
- 11日(日) 月例祭執行 午前10時30分
- 16日(金) 信徒共励会 午前10時
- 12~25日 夏季信行期間
- 24日(土) 月例霊祭執行 午後2時

祭典後教話、日本橋筋教会 成田信哉師
 講題：「見えぬはからいを見る眼」

8月

- 1日(日) 月例祭執行 午後2時
- 7日(土) 御本部月参拝 午前6時教会出発
- 8日(日) 月例祭執行 午前10時30分
- (行事予定の、日にちを変更しています。)
- 9日(月) うりわり墓参 午前7時
- 20日(金) 信徒共励会 午前10時
- 24日(火) 月例霊祭執行 午後2時

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

天地金乃神大祭
 5月16日



← 信徒総代玉串奉奠



↑ 講師の岸和田教会長 藤島政安先生

